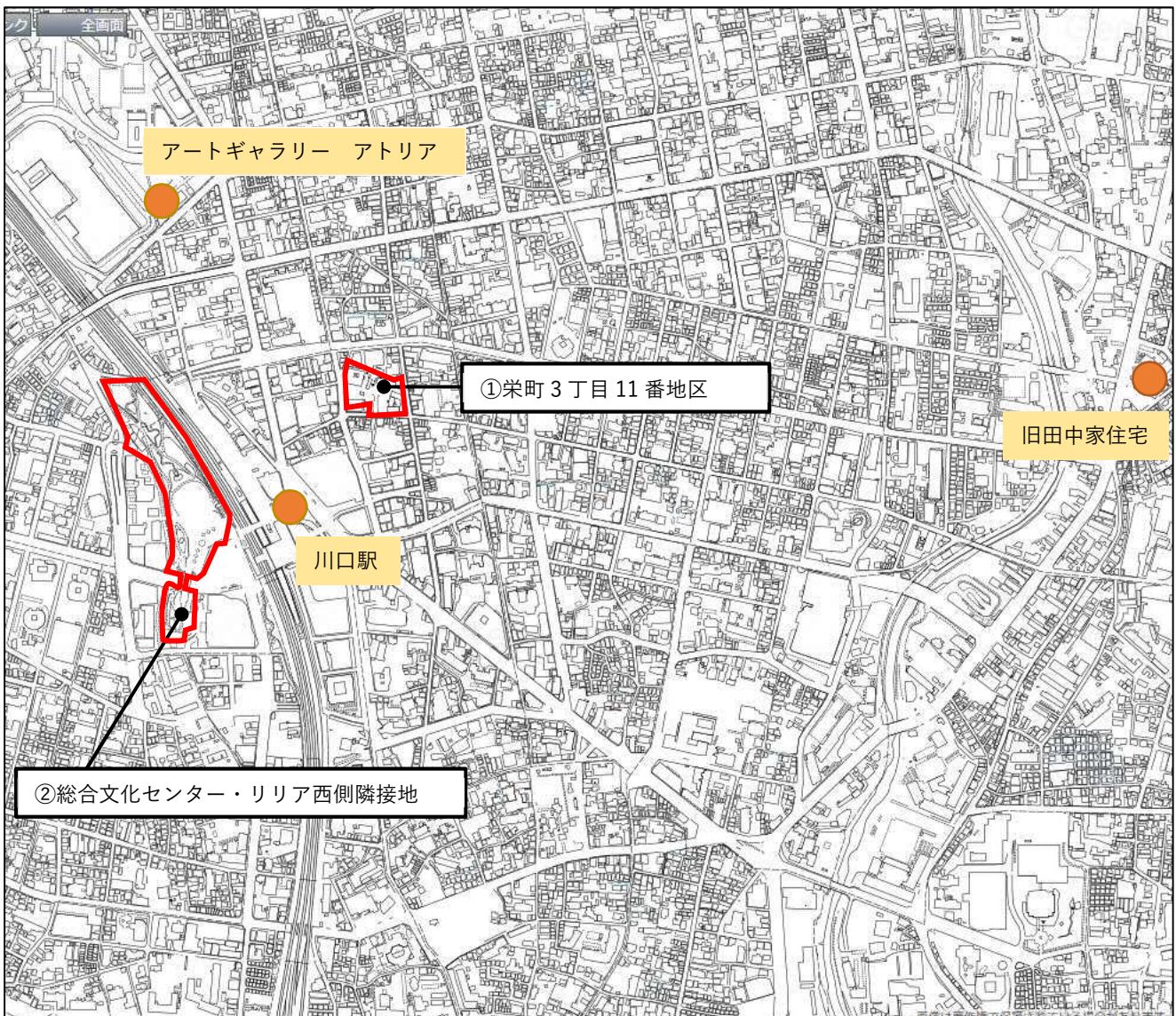


川口市美術館建設基本計画の改定について

1 川口市美術館建設用地の選定について

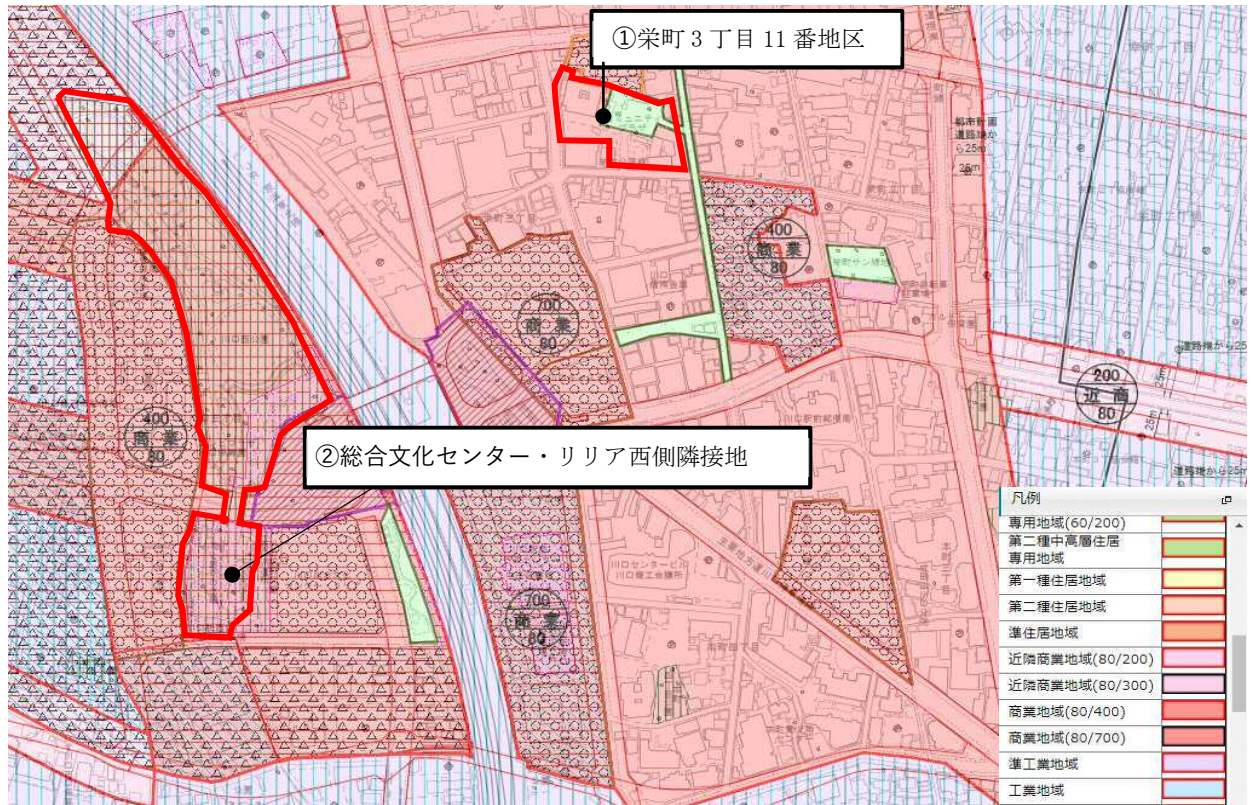
令和3年6月に策定された「美術館建設基本計画」では「栄町3丁目11番地区の再開発事業により美術館の建設を目指す」としていたが、令和4年3月議会において、リリア西側隣接地が美術館建設候補地として加わった。建設用地については、川口駅周辺の市所有地を活用する方針を中心に、①整備の実現性とスケジュール、②川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会（以下「審議会」という。）からの答申に盛り込まれている機能の充足、③中心市街地への貢献、④整備に係る財政負担の4項目を検討項目として建設用地の比較を行った。

- ① 栄町3丁目11番地区・・・再開発事業検討エリア、地区内に市有地、都市計画緑地を有する。
- ② 総合文化センター・リリア西側隣接地・・・駅から近く、リリアに隣接した市立公園。

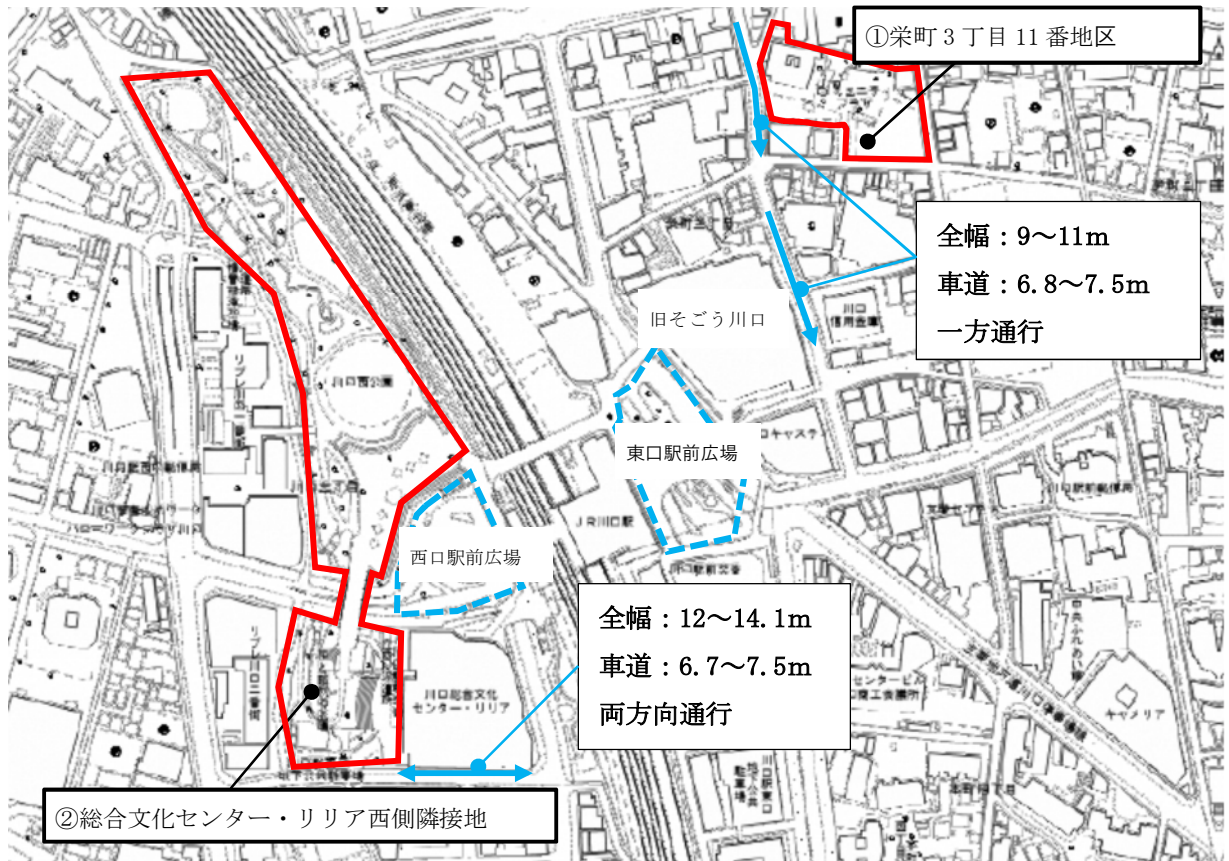


(1) 候補地の概況図

①都市計画



②接道状況



(2) 候補地の概況

対象地区	地区の概況	整備スキーム
① 栄町3丁目 11番地区	位置：前頁 敷地面積：約 5,600 m ² 都市計画：商業地域 400% (最大で 550%) 一部都市計画緑地	○再開発事業で美術館の整備を想定 ・本市所有地を権利変換対象資産として評価
	○市の保有権利 市有地約 1,080 m ² 緑地 約 2,360 m ² } 計 3,440 m ²	
② 総合文化センター リリア西側隣接地	位置：前頁 公園面積 :31,400 m ² 国-約 11,400 m ² 市-約 20,000 m ² 都市計画：商業地域 400% 都市計画公園	・公園内の施設として美術館の整備を想定 ・都市公園法により公園面積に対する建蔽率 10%まで建築可能 ・都市防災不燃化促進事業の避難地に位置づけられていることから、避難地としての空間が必要
	○市の保有権利 市所有地 20,000 m ² (都市公園)	

(3) 比較項目

- ① 整備の実現性／整備のスケジュール
- ② 審議会からの答申に盛り込まれている機能の充足
- ③ 中心市街地への貢献
- ④ 整備に係る財政負担

(4) 候補地の比較表

項目		基準・視点	① 栄町3丁目11番地区		② 総合文化センター・リリア西側隣接地		
(3)-①	整備の実現性	当該地での整備の可否 影響する関連事業等 法令等の条件	・再開発事業の事業化が必要 ・都市計画緑地の確保が必要	○	・公園内建蔽率合計10%の範囲内で建設が可能（都市公園法） ・地下駐車場があるが建設は可能	◎	
		整備スケジュール	早期の整備実現性	・再開発事業の事業化に整備スケジュールが左右される	△	・リリア大規模改修との一体整備ではあるが、独立の建物である為、スケジュールは最短である	◎
(3)-②	審議会からの答申に盛り込まれている機能の充足	① 川口らしさ	川口的美を体験できる建物 鋳物等・造園・映像・ ものづくり	・都市計画緑地において植木のまち川口を表現可 ・鋳物やものづくりは設計により実現可	○	・西公園において植木のまち川口を表現可 ・西公園の彫刻群が鋳物のまち川口を表現可	◎
		② 街並みのデザイン	景観資産となりうる建物 周辺施設への回遊性	・地域景観形成可 ・リリア及びアートギャラリーとの回遊性良好	◎	・西公園及びリリアと一体的景観形成可 ・リリア及びアートギャラリーとの回遊性良好	◎
		③ エコで災害に強い	省エネルギー ライフサイクルコストの軽減	・設計により実現可	○	・設計により実現可	○
		④ やさしく・安全	ユニバーサル・バリアフリー 警備運営システム	・設計により実現可	○	・川口駅からバリアフリーでのアクセス可 ・その他は設計により実現可	◎
		⑤ ドラマチック	アート鑑賞の演出 非日常空間構成	・設計により実現可	○	・西公園内の彫刻との融和が可	○
		⑥ デザイン性の統一	建築デザインの統一 ビジュアルアイデンティティ	・再開発による整備施設全体としてのデザインの統一可	○	・リリア及び西公園とのデザイン統一可	◎
(3)-③	中心市街地への貢献	地域への集客性 新たなコミュニティの醸成 中心市街地の活性化	・商店街沿いの敷地であり、集客力がある ・川口駅まちづくりビジョン、まちなかウォーク ブル推進事業に貢献し、中心市街地活性化に寄 与	◎	・駅直通的利便性が高い立地であるとともに、 リリアとの文化施設の集積により、集客が 期待できる ・川口駅まちづくりビジョン、まちなかウォー カブル推進事業に貢献し、中心市街地活性化 に寄与	◎	
(3)-④	整備に係る財政負担	既存財産等の活用 経費削減	・再開発で市有地を権利変換することにより負担 を軽減（権利変換資産は土地費及び建物費に充 当） ・国庫補助の活用	◎	・土地取得費不要 ・リリア大規模改修との一体的な整備によるス ケールメリットによる経費削減 ・国庫補助の活用	◎	
総合評価			○	◎	・短期間で着工可能 ・西公園の中の静かな環境であり、美術鑑賞に適している ・文化施設の集積が図れ、リリアとの相乗効果も期待できる ・駅直通的利便性が高い立地で集客が期待できる ・西公園内にあるたくさんの彫刻との融和を図ることができることから、美術館建設場所に適している		

※ 建設候補地2か所について、相対的に評価したもの

2 基本計画の改定について

建設用地としてリリア西側隣接地を選定したことに伴い、基本計画 31・32 ページ「第 3 章 建設用地・施設形態」の記載内容を変更し、改定する。

改定にあたり、パブリック・コメントを実施した。

(1) 改定の内容

(2) パブリック・コメント手続き

実施期間 令和 4 年 11 月 1 日～11 月 30 日

実施結果 別添資料 3 のとおり

(1) 川口市美術館建設基本計画の改定の内容

改定前

第3章 建設用地・施設形態

1. 建設用地の検討

旧栄町公民館跡地を含む川口市栄町3丁目11番地区の再開発事業により美術館建設を目指します

建設用地については、川口駅周辺の市所有地を活用する方針を中心に、①整備の実現性とスケジュールリスク、②審議会からの答申に盛り込まれている機能の充足、③商店街など中心市街地への貢献、④整備に係る財政負担の4項目を検討項目として建設地の検討を重ねた結果、美術館を建設することによって施設が人の流れを生み、地域への集客性が見込まれ、美術館を訪れた多くの人々と地域の人々とが交流することで新たなコミュニティの醸成と中心市街地の活性化が期待できる旧栄町公民館跡地を含む川口市栄町3丁目11番地区の再開発事業により美術館建設を目指すことといたしました。



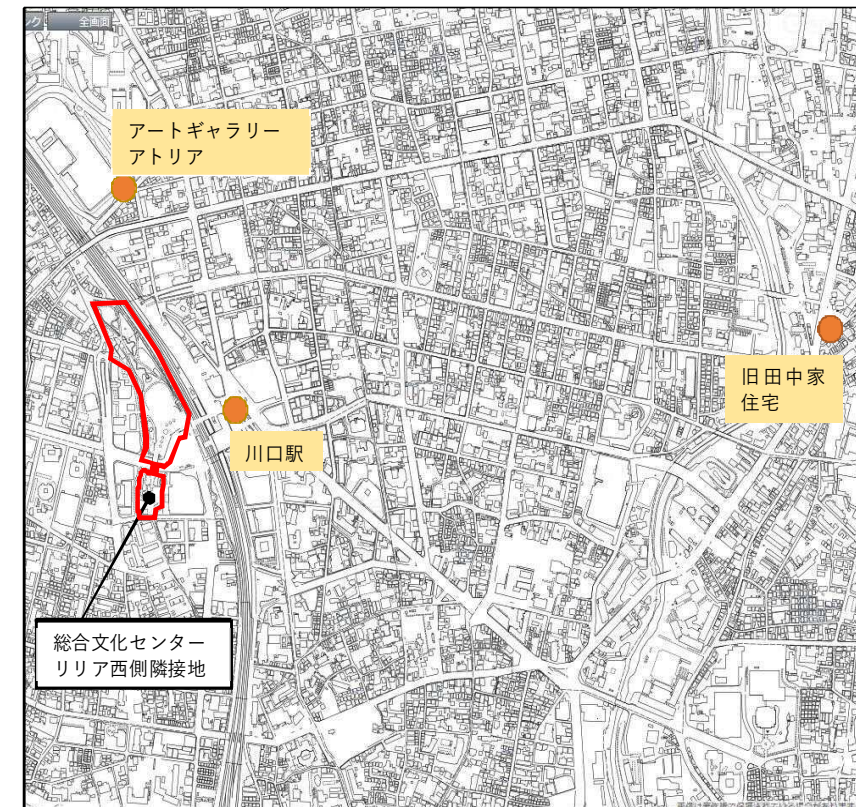
改定後

第3章 建設用地・施設形態

1. 建設用地の検討

総合文化センター・リリア西側隣接地に美術館を建設します

建設用地については、川口駅周辺の市所有地を活用する方針を中心に、①整備の実現性とスケジュール、②審議会からの答申に盛り込まれている機能の充足、③中心市街地への貢献、④整備に係る財政負担の4項目を検討項目として建設地の検討を重ねた結果、最短の整備スケジュールが見込めること、彫刻が多数設置された公園内の静かな環境で美術鑑賞に適していること、文化施設の集積を図ることでリリアとの相乗効果が期待できることなどから総合文化センター・リリア西側隣接地に美術館を建設いたします。



2.施設形態の検討

施設形態としては、再開発施設と分離し、美術館を一棟で建設する単体施設の場合と、建物本体と再開発施設の一部を共有する場合、複合施設として一棟で建設する場合等が考えられます。

建設費や工事期間、建物や外構のイメージを統一のデザイン等、それぞれのメリット・デメリットを考慮し、施設形態の検討を進めます。

周辺環境

本施設と中心市街地である周辺環境との繋がりを重視します。周辺の街並みが、美術施設と調和したアーバンデザインへの展開を可能とすることが望ましいと考えます。周辺の環境を活かし、本施設が地域に根ざすことが大切です。また、建設工事が容易に行え、建物のインフラが整備しやすい事も重要です。

スケジュール

再開発事業となることから、着工までに権利者の合意形成等の期間を要する必要があります。地域の方々、権利者の方々、そして美術館を利用する方々の合意形成を大切にしながらも、できる限りコンパクトなスケジュールの組み立てを検討します。

将来性

長く市民に親しまれ、利用され続けていくためには、長期的な運営が持続可能で、周辺の環境とともに発展していく用地が望ましいと考えます。建設後の建物の管理、ランニングコスト低減や維持保全工事等の合理的な計画を考慮します。また、美術館が積極的に耐震等、防災安全対策に関して、長期的に周辺環境に寄与できることを考慮します。

2.施設形態の検討

施設形態としては、美術館単体施設として建設するが、既存の川口駅西口地下公共駐車場を活用した複数の整備方法が考えられます。

建設費や工事期間、リアや公園との統一デザイン等、それぞれのメリット・デメリットを考慮し、施設形態の検討を進めます。

周辺環境

本施設と中心市街地である周辺環境との繋がりを重視します。周辺の街並みが、美術施設と調和したアーバンデザインへの展開を可能とすることが望ましいと考えます。周辺の環境を活かし、本施設が地域に根ざすことが大切です。また、建設工事が容易に行え、建物のインフラが整備しやすい事も重要です。

スケジュール

総合文化センター・リア大規模改修との一体整備ではあるが、独立の建物である為、短期間での着工が可能です。できる限りコンパクトなスケジュールを検討します。

将来性

長く市民に親しまれ、利用され続けていくためには、長期的な運営が持続可能で、周辺の環境とともに発展していく用地が望ましいと考えます。建設後の建物の管理、ランニングコスト低減や維持保全工事等の合理的な計画を考慮します。また、美術館が積極的に耐震等、防災安全対策に関して、長期的に周辺環境に寄与できることを考慮します。

パブリック・コメントの状況について（令和4年11月30日現在）

1 意見提出者 9人

2 意見数 50件

3 主な内容

- ・美術館の利用に関すること
- ・学校行事やイベントなどでの活用に関すること
- ・収蔵庫の整備やその仕様（空調・防火等）に関すること
- ・建物のデザインに関すること
- ・美術館の必要性について
- ・運営方法、コストについて
- ・議論、説明が不足
- ・候補地変更のプロセスについて
- ・建物の安全性や周辺住宅との調和について
- ・アートギャラリーアトリアと美術館の役割分担について 等